

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270102132
法人名	株式会社 長建工務店
事業所名	グループホーム 虫の園
所在地	長崎県長崎市本河内2-14-2 (電話) 095-820-1424
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 3月 25日

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 12月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	6 人 常勤 6人, 非常勤 人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 2階建 1~2階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,300~60,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		400 円	

(4) 利用者の概要 (3月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90 歳	最低	78 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山本内科医院・岩本歯科・十善会病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は平成12年にグループホームを開所した長崎のグループホームさきがけの事業所である。運営者の生まれ育った自宅をそのままグループホームに活用しているため地域との交流も深く、利用者は家庭の雰囲気に包まれた中で安心して生活をしている。北海道夕張市にも系列のグループホームが2軒あり、また運営者が全国グループホーム連絡協議会に加入しているのは、長崎と北海道、さらには全国の優れた点や最新情報を得て当事業所の質の向上に役立てることができる優れた点である。退所後、身寄りがなく病院で亡くなった方の葬式や納骨の世話まで親身に最後まで係わる運営者の姿勢は他にあまり例を見ない。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	自己評価、外部評価の意義は運営者が職員に説明し理解を求め共有するよう努めており、具体的な改善にも取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成は管理者が作成しており、職員は参加していない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成20年2月に第一回運営推進会議を実施した。構成メンバーは利用者、家族、施設長、職員、町内会長、地域住民、長崎市すこやか支援課担当者であり、地域の介護相談や独居世帯へ声掛け、ホームの徘徊時の補助などについて意見交換がされた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時に出た意見や希望はその都度、記録書が作成され管理者、職員で話し合い現場に反映させている。意見箱は玄関に設置されており、外部の苦情窓口の掲示もされているが、重要事項説明書などの書類に外部窓口の明記がされていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は運営者の生まれ育った場所にあり地域の交流は深い。常に住民からの声かけがあり、地域祭りへの参加や老人会の訪問など頻りに交流している。中学の職場体験や地域住民の見学者も自由に受け入れている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは利用者を「家の主」であり「家庭」の延長上であるように理念を作成しており、地域密着についても再度職員と話し合いがなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	午前・午後のミーティングがあり毎日介護目標を持ち支援するようにしている。また午後は必ず理念を読み上げ、毎日理念を再確認し「利用者の尊厳」を大切にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は運営者の生まれ育った場所にあり地域の交流は深い。常に住民からの声かけがあり、地域祭りへの参加や老人会の訪問など頻りに交流している。中学の職場体験や地域住民の見学者も自由に受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義は運営者が職員に説明し理解を求め共有するよう努めており、具体的な改善にも取り組んでいる。しかし、自己評価作成は管理者が作成しており、職員は参加していない。	○	職員全員がそれぞれに自己評価に取り組み、自らの支援について振り返る機会の場合とし、外部評価結果で見過ごした項目を確認することで更なる質の高い支援となることを期待したい。

グループホーム 蛭の園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年2月に第一回運営推進会議を実施した。構成メンバーは利用者、家族、施設長、職員、町内会長、地域住民、長崎市すこやか支援課担当者であり、地域の介護相談や独居世帯へ声掛け、ホームの徘徊時の補助などについて協議し、今後も事業所の質の向上に留まらず行政と地域との架け橋になる会議の場にするために取り組む姿勢である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から長崎市を通して認知症の相談や指導、また研修の受け入れを行っている。介護相談員の受け入れも行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の近況や変化は家族の訪問時や電話で報告を行っている。また、月に一度暮らしぶりや行事の写真を郵送している。金銭の預かりは基本的にはないため、立替の領収書を確認してもらい請求している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に出た意見や希望はその都度、記録書が作成され管理者、職員で話し合い現場に反映させている。意見箱は玄関に設置されており、外部の苦情窓口の掲示もされているが、重要事項説明書などの書類に外部窓口の明記がされていない。	○	重要事項説明書に外部窓口の明記を行い、家族に説明することを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同じ系列の隣接するグループホームとの間で、勤務シフト上やむを得ない異動はあるが、日常から行き来しているため顔なじみの関係ができており、利用者には不安がないように配慮している。		

グループホーム 蛍の園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として職員の介護レベルに合わせたテストが実施されており、全問正解するまでを目標に行われている。緊急マニュアルはお互いに実演しながらその場になったときに実際に動けるようトレーニングしている。ただし、年間を通した職員のレベルアップのための研修計画作成や外部研修の受講までは至っていない。	○	職員の更なるレベルアップのためにも、個々に適した研修の年間計画と外部研修の受講を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は全国グループホーム連絡協議会へ加入し研修にも参加しており、研修内容は事業所で報告発表、講習を行っている。また他ホームへ代表と管理者は見学も積極的に行い情報収集も行っている。ただし、職員は他のグループホーム職員との交流する機会があまりない。	○	職員が他のグループホーム職員と交流することで、事業所の良い点を再認識したり、他事例を知る機会にもなると考えられる。職員の交流の機会を持つよう期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は長崎市からの紹介で入居したケースが多く、入居までの情報収集は短期間に行われている。入居後は職員の見守りを重点に置き、話し相手をしたり、他の利用者との仲を取り持ったりして事業所に慣れてもらえるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から「感謝の気持ち」を学び、利用者の残存能力を十分に発揮できるような場面作りを行っている。干し柿作りは恒例で利用者が中心になって行われている。		

グループホーム 蛍の園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者と握手をしながら、細かに声かけを行い日々交流を行っている。出来る限り些細な変化も見逃すことなく、意向を把握し検討するよう努力している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員が利用者一人ひとりの「できること、できないこと」をシートに記録し、特別なケア会議を実施するまでもなく、午前と午後に職員ミーティングで、その記録を確認して、作成に活かしている。家族の希望や主治医の意見も反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは定期的に行っているが、退院後は身体機能が低下しているため必ず見直している。また、急な変化があった場合はその都度見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診や墓参り教会礼拝、お彼岸のお参りに出かけたり、利用者の希望の日程を柔軟に支援している。		

グループホーム 蛍の園


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度協力医療機関からの往診がある。また、入所以前からかかりつけの病院への受診も可能で職員が通院支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについての指針は「主治医や関係者と連携しながら最期まで対応すること」としており、重要事項説明書に明記されている。早い段階から家族や関係者とも話し合わせ職員もその方針を理解している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳を重んじ、声かけにも配慮がある。また、記録は所定の位置に保管されており、職員への利用者の個人情報取り扱いについては誓約書を取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が決めたスケジュールではなく、利用者主体の一日の生活を支援するようその時々意向を聞いて、それに沿うよう努めている。		

グループホーム 蛍の園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は野菜を中心にして栄養バランスを考えた食事を提供している。職員は利用者と一緒にテーブルを囲み、同じ物を食べて楽しく会話しながら過ごしている。食事介助の必要な利用者には職員が付いており、利用者の能力に合わせた食事となっている。食事の片付けなどを手伝う利用者もいて、職員が支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に一度を入浴としているが、当日の体調をみて、入浴を支援している。入浴が無理な場合は清拭で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の部屋でくつろいだり、リビングで利用者同士談笑したりと一日を自由に過ごせるよう支援している。以前は花の手入れなどしていたが、高齢になり難しくなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候が良い日は外気浴と気分転換を兼ねて近所を散歩している。通院での外出も利用者の楽しみであり、場面を見つけては外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上夜間の施錠以外は出入り自由であり、通常の家と同じように玄関にチャイムが付いていて来訪や外出がわかるようになっている。		

グループホーム 蛭の園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は利用者も参加して行われている。夜間想定も行っている。利用者の避難状況も把握しており誘導方法を個別に確認している。住宅地の中にあり、近隣と隣接しているため、避難訓練は自治会へ知らせ協力を仰いでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事の摂取状況の項目があり日々の変化に対応が出来る。水分は食事、おやつなどの時に提供し、糖尿の利用者など主治医の指示を受けながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングには利用者とその日の気分や自分の気に入った場所があり、大小のソファや食卓テーブルセットなどが設置してある。通りに面しているため採光、換気ともに十分できており、遠くの山々の新緑や紅葉を眺めて四季を感じることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの部屋には、以前から使い慣れている仏壇、たんすなどがある。個人住宅の各部屋を利用しているため、部屋に入るまでの廊下や障子ふすまなども家庭的で懐かしく安心できる居心地の良さがある。		

※  は、重点項目。